

新年のご挨拶

太田市医師会長 李 雅 弘

新年あけましておめでとうございます。会員の皆様方におかれましてはお健やかに新年をお迎えになられたこととお慶び申し上げます。本年未年が平和で平穏で安心して暮せる年でありますことを心より祈念しております。

今年は安倍内閣が3年目を迎え第3次安倍内閣がスタートしました。アベノミクスや追加の金融緩和により、一段の円安、株価上昇等があり、しかも消費税10%も先送りされ景気の動向が注目される1年となります。報道による景気の好調さは大企業ばかりで、中小企業や一般の国民には残念ながら恩恵をこうむっていないように思われます。昨年4月に消費税が8%に増税されました。これは「社会保障と税の一体改革」という冷徹なる法により開始されました。社会保障という現在において社会生活を営んでいる世代が受けるサービスの財源を国債という次世代へのつけ回しにたよるのではなく、誰もが負担しあうという社会保障の理念から発案されたはずでした。しかし、8%の時代を迎えて社会保障が充実したという実感がありません。何故なのでしょう。残念ながらいまだ誰もが納得する解答が出されていません。又、安倍内閣は「全ての女性が輝ける社会」の構築という政策を発表いたしました。医療、介護の現場ではすでに多くの女性が患者の為、高齢者の為に懸命に努力し働いています。しかしながら女性達を取り巻く環境は苛酷であり、今の診療報酬や介護保険の現状ではとても輝ける女性の未来ある職場とはなりえません。いつ女性が輝く年になるのでしょうか。

さて、群馬県では昨年富岡製糸場と絹産業遺産群が世界遺産の登録をうけ、次いで当県ではじめての国宝に指定されました。熊谷駅に降りると「技術大国、日本の原点へ」という誰もがなるほどと思うキャッチコピーが貼られています。しかし、本県も少子超高齢化の波による2025年問題へ今年には10年しかない幕開けの年になりました。具体的な数字としては、2025年には65歳以上の人口はカナダ一国を凌ぐ3700万人と推計されています。

群馬県でも2010年に約200万人であった人口は2025年に185万人で7.5%減少し、0～14歳児は、27万から20万へと減少します。一方65歳以上は77万から104万と1.35倍の増加という少子超高齢化が現実となります。この瞠目すべき数字にひるむことなく私達がなすべきことは多職種間の緊密な連携をはかり、医療、介護の充実に邁進し、医療における受診抑制や介護における受給辞退のない社会をめざすこ

とであり、今後一層の努力により Cure から Care への転換をすべく時代を動かしていくべきであると考えます。

太田市医師会では、昨年4月に地域医療の拠点としての医師会館をスタートさせました。今後とも私達は、地域医療の充実に努め、住民の方々のニーズにこたえ、さらに生命と健康を守る使命を全うすべく努力する所存でございます。

皆様方のご指導、ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

結びにあたり、群馬県医師会、太田市医師会、関係各位のご健勝、ご多幸を衷心より祈念申し上げ年頭の挨拶とさせていただきます。

平成27年1月